

英国では路面電車のことはトラムと呼ぶ(らしい)。英国の植民地であった香港でもトラムである。でも、2階建電車が存在するのは世界でもここだけである。

そこで、香港らしさを紹介する風景として、今回はこの2階建路面電車を選んでみた。

九龍側からビクトリアハーバーを挟んで臨む香港島の高層ビル群の風景は、昼でも夜でも香港を代表する定番中の定番であり、ここでも何回か登場させてきた。

これと対比するのが、2階建電車が走る風景であり、香港の旅行案内を飾るもう一方の定番である。

今回撮影の場所は香港セントラルのオフィス街。本当は中国語の看板が入り乱れ、食堂からのニンニクの匂いも漂よってきそうな雑多な路地を走る電車を撮りたかったのだが、今回は時間の関係で、ここでの撮影となった。

とはいえ、高層ビル群の間を抜けて走る2階建電車の姿は、これはこれでしっかり香港らしさでもあろう。

久しく、この電車には乗っていないが、80年代、ラマ発電所建設に関わっていた当時は、香港に出てきてはよく利用したもので、そのときのことを思い出す。

後方入り口から乗車したら、螺旋階段で2階まで上がり、先頭の席を目指す。ゆっくりと、時には自転車並みの速度でゴトゴトと走る電車の窓から見渡す街並み。そして、蘇るのは子供の頃、父親の肩車のうえで、得意げに周りを見下ろした感覚にも似た快感。これだけでも、得した気持ちとなる。その運賃は当時もタダみたいに安かったが、今でも全線定額の2香港ドル(約20円強)と、香港の平均的物価と比較しても格安である。

これを前方の出口で払う。今はプリペイドカードも利用でき、これをかざすだけで、小銭の準備も不要。

電車を降りて、ゆっくりと歩く、そして、200～300メートル間隔にある電停で、また、気ままにぶらり飛び乗る。

いつか時間がとれたら、こうして香港をゆっくり巡ってみたいものだ。

